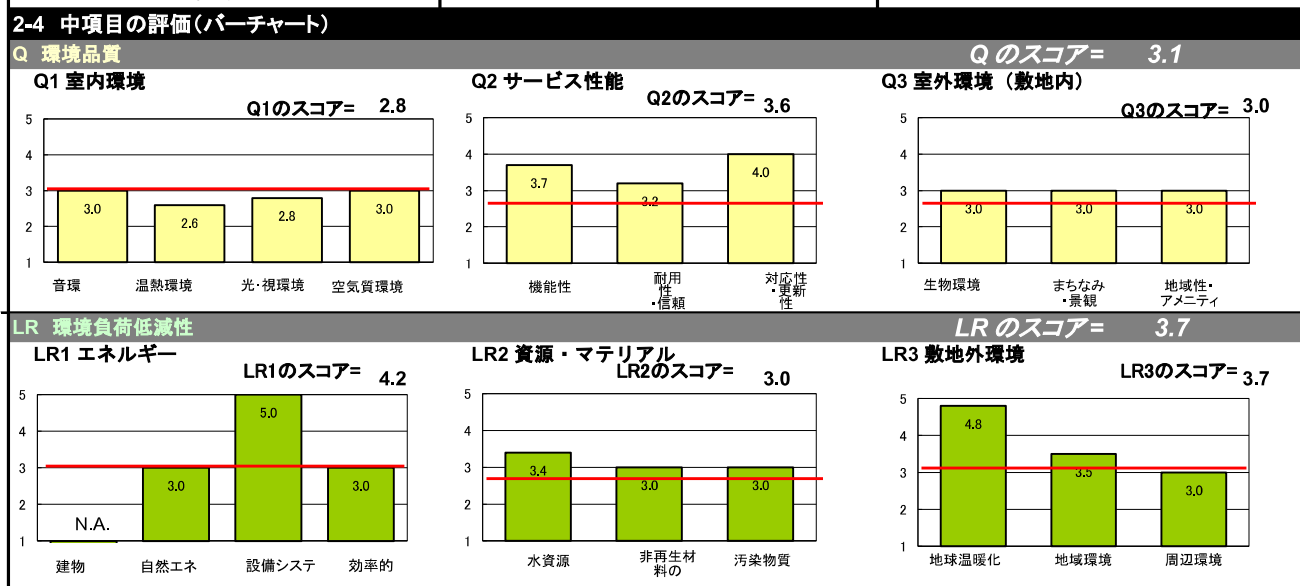
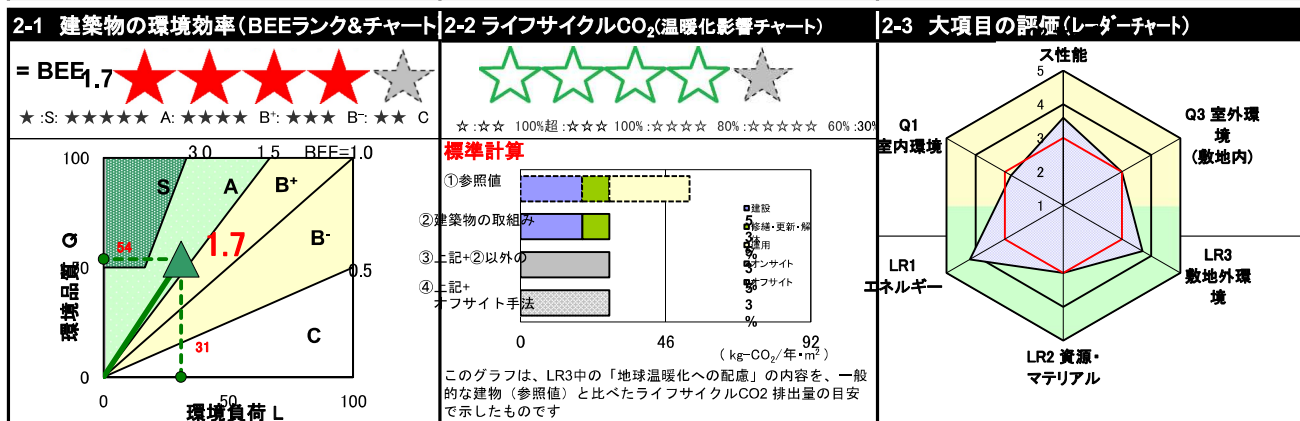


CASBEE® 名古屋 | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境2019年版、名古屋市の建築物環境性能評価システム2019 | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ESR名古屋南デストリビューションセンター2	階数	地上4F
建設地	名古屋市中区本郷町南1383番6,399番2名古屋市中区本郷町南1309番3,399番3,399番15,4134番,4136番,名古屋市中区大津町12番,412番,12,13番1の一部,15番1	構造	S造
用途地域	市街化区域、準防火地域	平均居住人員	2,000 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	
竣工年	2023年10月 予定	評価の実施日	2022年9月30日
敷地面積	24,795 m ²	作成者	
建築面積	12,309 m ²	確認日	2022年9月30日
延床面積	46,746 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		
総合 周りの工場地帯とも調和のとれた外観である。		その他 特になし
Q1 室内環境 標準的な環境である。	Q2 サービス性能 居室内面積・高さについては十分とり内装仕上げ材、空調、給排水管の更新必要間隔にも配慮している。	Q3 室外環境 (敷地内) 出入口に防犯カメラを設置し、防犯性に配慮している。
LR1 エネルギー BPiB、BEI=0.0である。	LR2 資源・マテリアル 節水型便器を使用 躯体と仕上材が容易に分別可能である。	LR3 敷地外環境 燃焼機器を使用していない。 適切な量の駐輪場、駐車場を確保している。導入路は交差点を避け東西3カ所に設け周辺道路への渋滞緩和に値する。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

ESR名古屋南ディストリビューションセンター2

■ 使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■ 評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				4.2
LR1	エネルギー	4.3	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.8	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				2.9
Q3.1	生物環境の保全と創出	3.0	0.12	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.012	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上			
3. 循環型社会				3.0
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.2



2. 自然共生

評価点 = 2.9



3. 循環型社会

評価点 = 3.0



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。